

学力向上に効果のある取組

豊後大野市小中一貫教育校 清川小中学校

小中一貫教育校における教科担任制の推進

小中一貫教育校において、教科担任制で期待される効果（専門性の高い授業・多面的な児童生徒理解・小中学部間の円滑な接続）を最大限に発揮するため、児童生徒の実態分析に基づく課題の設定、乗り入れ授業の拡大、教員間の日常的な情報・意見交流を図っている。

9年間を見通した課題の設定

Plan

- ◆校内研究テーマ：
「相手意識を持った表現力の育成」
- ・各ブロック（前期・中期・後期）において「めざす姿」と「具体的な取組内容」を設定
- ◆学習規律の統一
・授業のルール



6年社会科授業

教科担任制（乗り入れ授業）の拡大

Do

学年	教科担任制（乗り入れ授業）
6年	社会 英語 音楽 体育
5年	英語 音楽
4年	英語
3年	英語



4年外国語活動授業



5年音楽科授業

児童生徒の実態・実践情報の交流

See

Research

- ◆ブロック会議（前期・中期・後期）◆PT会議（学力）

◇実態と取組状況をセットで交流

例）「こんな取組をして、子どもがこうなっている」
「こんな実態なので、こんな取組み方をしている」

◇ふり返りの視点

- ①取り組んでいるか？
- ②焦点化や重点化の必要はないか？
- ③全校に紹介したい好事例はないか？
- ④そもそも取組内容は妥当か？